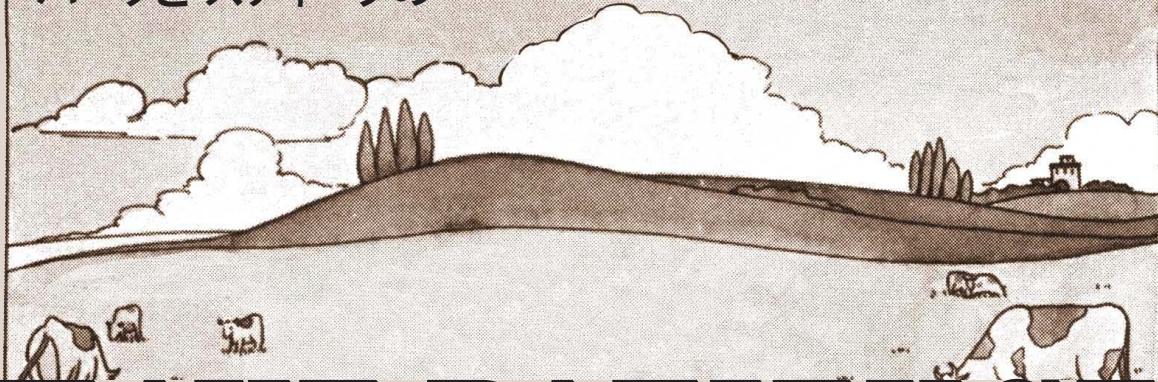


バークと スティーブの・・・



“HAVE PATIENCE”

きなが
「気長に やろう」



ある 晴れた 夏の 日の こと。

仲良しの バークと スティーブは、
夏休みを いっしょに 過ごそうと、
スティーブの おじさんの 所
に行きました。ハーバートおじさんは、
いなかで 小さな 農場を 営んで
います。

スティーブは、毎年 夏休みに
なると、2 週間ほどを おじさんの
所で 過ごし、農場の 仕事を
手伝います。今年は、友だちの
バークも いっしょです。



ハーバートおじさんが^{な や どうぶつ}納屋で動物たちを
^{せ わ}世話していると、バークと スティーブが
やって^き来ました。「おはよう、お^{ふたり}二人さん。
^{さっそく}早速だが、今朝は^{け さ きみ}君たち二人で^{ふたり}乳しぼりが
^{おも}できると思うかい?」とおじさん。

「お^{まか}任せを!」^{ねっしん}熱心そうに^{こた}答えながら、
バークはもう^{うしご や む}牛小屋へ向かって^{はし}走り
^だ出しています。

「そう あわてるな、バーク。」 ハーバート
おじさんは^{おおこえ}大声でよびながら、スティーブと
いっしょにバークの^{あと}後に^{つづ}続きました。

め牛のベシーの^{ところ}所に来ると、バケツと
いすが^で出ていたので、バークはもう
^{ちち}乳しぼりを^{はじ}始める^{じゅんび}準備ができていました。

「では、^{ちち}乳の^{かた}しぼり方を^み見せてあげよう。」
と、ハーバートおじさんが^い言いました。

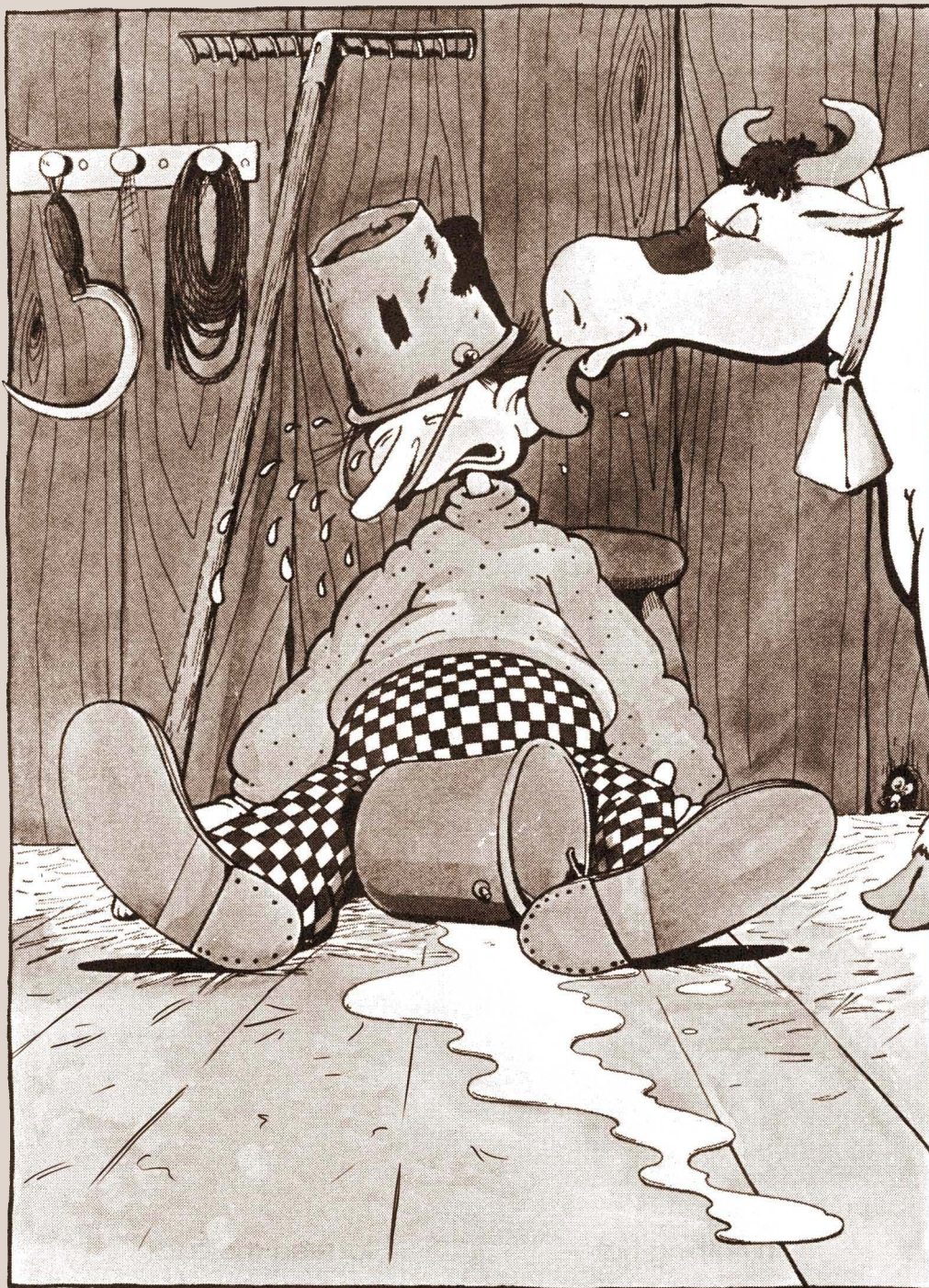
「^{ひとり}ぼく、一人でできるよ。」 ベシーの
^{ちち}乳をしぼろうとしながら、バークが
^{こた}答えました。けれども、バークは^{じぶん}自分が
^{なに}何を^わしているのか、^わ分かっていません。



「モーーーーー！」 バークは、
うっかり ベシーの^{あし}足に バケツを
ぶつけてしまいました。

バークが ^{いっしょう}どんなに ^{めい}一生けん命
^{うし}め牛の ^{ちくび}乳首を ^ひしばっても ^ぼ引っ張っても、
^{ちち}お乳は ^で出てきません。 ^{なんど}何度も ^{なんど}何度も
やって、ついに ^{ちち}お乳は ^で出てきましたが、
そのころには もう、バークの ^{ほう}ほうが
あきてしまいました。(^{うし}め牛の ^{ちち}乳しぼり
なんて、 ^{じかん}時間がかかり過ぎるよ。)と
バークは ^{おも}思いました。(^{なに}何か ^{ほか}ほかの
ことができるように、 ^{はや}できるだけ ^{すみ}速く
すませちゃおう。)

バークは、 ^{はや}もっと ^{ちち}速く ^{ちち}乳しぼりが
^お終わるようにと、 ^{いそ}急いで ^{ちくび}乳首を
^ひぐいぐいと ^ぼ引っ張りました。けれども、
^{ちち}お乳は ^{はい}バケツに ^{はい}入らずに、 ^{じめん}地面の
あちこちに ^と飛び ^ち散ってしまいました。
どうした ^{ちち}ものか、バークは ^{ちち}お乳を
ハーバートおじさんの ^{かお}顔にまで、
^とピシャッと ^と飛ばしてしまっただけです！



バークが「もう ^{しま}お終い」にした ^{とき}時、
バケツにはまだ、4分^{ぶん}の1ほども
^{はい}入っていませんでした。あわてて
^た立ちあがったため、うっかり バケツを
けて ^{かえ}ひっくり返してしまいました。
お乳^{ちち}は またもや、そこらじゅうに
こぼれてしまいました。バークは、
^{なに}何もかも めちゃくちゃに ^なしまったのです！

「ウェーンウェーン！」 バークは
^な泣きべそを ^かきました。「乳^{ちち}しぼり
なんて、^{じかん}時間が ^かかり過ぎるし、
^すむずかし過ぎて、ぼくには ^ぜったいに
うまくなんか、できっこ ^ないよ！」

ベシーは ^{ひく}低い ^{こえ}声で モーと ^な鳴いて、
バークの ^{かお}顔を ペロッと ^なめました。
それで、バークは ^なますます ^な泣きじゃくり
ました。



「やり方を^{かた}教えてあげるよ。」

そう^い言うと、スティーブがベシーの
そばのいすにゆっくりと^{こし}腰を
^お下ろしました。スティーブは
^{ちゅういぶか}注意深くバケツを^{うし}め牛の^{ちぶさ}乳房の
^{した}下に^お置くと、しんぼう^{つよ}強く^{ちち}乳を
しぼり^{はじ}始めました。

まもなく、バケツは^{ぎゅうにゅう}牛乳で
いっぱいになりました。ネコの
レジーナにあげられるくらい、
たくさんありました。



「でかしたぞ！」 スティーブが
ぎゅうにゅう はい
牛乳の 入ったバケツをハーバート
おじさんの ところ へ 持っていくと、
おじさんが いました。「お 落ちて、
かくじつ ただ
確実に やることじゃの。物事を 正しく
やるには、時間と しんぼう 強さが
いるものじゃ。」

「どうして、しんぼう 強さが
たいせつ
大切な の？」 バークが ききました。

「ぼくは、手っ取り早く やるのが
す 好きなんだ。そうすれば、毎日 もっと
たくさんの ことができるもの。」

「気長に やれば、物事が 起こるのを
ま 待つのも、もっと 楽になるぞ。」と、
ハーバートおじさん。「ほとんど
すべての ことには、時間が かかるものだ。
じぶん ばん ま しごと
自分の 番を 待つ のにも、仕事を
お 終わらせる のにも、新しい ことを
あたら
学ぶ のにもな。好きな ことを する のに
まな す
だって、時間 が かかる だろう？」

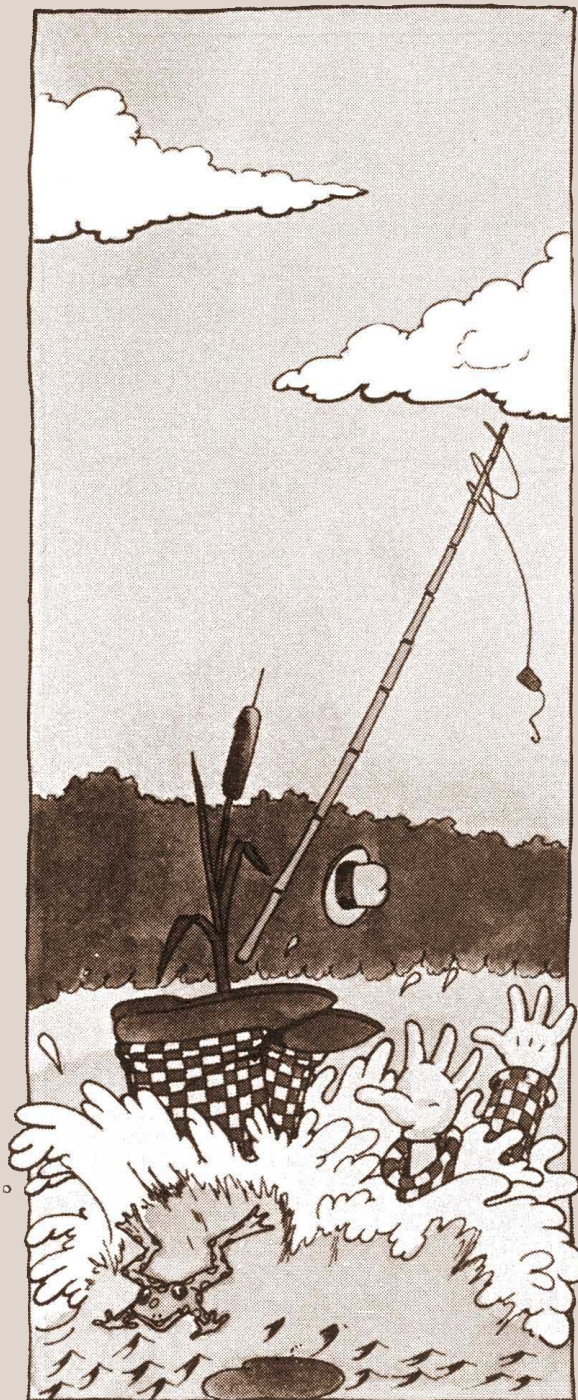


「いつも いつも ^{いそ}急いでばかりいて、
すべき ことを ^て手っ取り ^{ばや}早く ^{かたづ}片付けていたら、
^{けっきょく}結局は ^{じかん}もっと ^{まえ}時間が ^{かか}かかってしまう ことも
よく あるんだぞ。 ^な前にも ^どどって、 ^{まち}まちがって
やった ことを ^{なお}やり直さなければ ^{なら}なく
なるからな。 ^{おも}それで ^だ思い出したんだが、
わしも ^{とき}ある時、 ^{つよ}しんぼう ^き強く ^{なが}気長に やると
いう ^{きょうくん}教訓を ^{まな}学んだんじや。」

「^{なに}何が ^お起こったの？」 ^わバークが ^きききました。

「^{そう}そうじゃな、 ^{あれ}あれは、 ^わわしが ^{わか}若かった
ころの ^{はなし}話だ。 ^{さかな}魚が ^{いちばん}一番 ^{ばしょ}つれそう ^な場所を
^{さが}さがしながら ^{かわ}川沿いを ^{ある}歩いていたら、
^{はんたい}反対側に ^よ良い ^{ばしょ}場所 ^{がある}のを見つけてな。
^{かわ}川の中 ^{なか}から ^でつき出 ^いていた ^{いわ}岩 ^{うへ}の上 ^{てんてん}を ^ま転々と
またいで ^{わた}渡ろうと ^き決めたのじや。 ^{そう}そうすれば、
^{はし}橋 ^{わた}を ^{かりゆう}渡るのに ^い下流 ^{じかん}まで ^い行く ^{じかん}時間が
^{はぶ}省けるからな。 ^だだが、 ^わわしが ^{いわ}「岩」 ^{おも}だと思 ^{った}った
ものの ^{ひと}一つは、 ^{じつ}実は、 ^{かめ}カメ ^だだったのじや。」





それで、わしがカメの^{うえ}上に
どっこいしょと^{たいじゅう}体重をかけた^{とき}時、カメは
それが^き気にくわなかったんだな。わしは、
バッシュンと^{みず}水の中^{なか}にまっさかさまに
はまって、ずぶぬれじゃ。」

そう^い言いながら、ハーバートおじさんは
クスクスと^{わら}笑いました。「橋は、^{はし}大して^{たい}
はなれていたわけでもなかったから、
ちょっと^{ある}歩いていれば、^{さかな}魚つりの^ひ日を
^{だい}台無しにし、ずぶぬれで、ひどく^{ふきげん}な
ま^{いえ}ま^{かえ}家に帰らないですんだというのに、
わしはせっかちで、すぐにでも^{さかな}魚つりを
^{はじ}始めたかったんじゃよ。」



この^{つき}次は、^{はし}橋を
^{わた}渡るんだな。そのほうが、
^{じかん}時間の^{せつやく}節約になるし、
^{なん}何と^い言っても、
ぬれなくてすむからな!



「だけど、ゆっくり やるのは
たいくつだよ!」と バーク。

「^{かなら}必ずしも ^{かぎ}そうとは 限らないぞ。
^{のうふ}農夫は ^{はたけしごと}畑仕事をしていく ^{うえ}上で、
^{つよ}しんぼう強さについて、たっぷり
^{まな}学ぶものじゃ。 ^{さくもつ}作物が ^{せいちょう}成長するには
^{じかん}時間がかかるし、 ^き木が ^み実を ^{みの}実らせたり、
^{かちく}家畜が ^こ子どもを ^う産むのにも、 ^{じかん}時間が
かかるからのう。^{のうふ}農夫が ^{さくもつ}作物を ^う植えて、
その後 ^{あと}ジタバタしながら、 ^{むぎ}麦や
とうもろこしの ^{なえ}苗に ^む向かって、 ^{はや}速く
^{おお}大きくなれって ^{さけんだり}さけんだり ^{わめいたり}わめいたり
するのは、おろかというものじゃ。
^{さくもつ}作物なんかは、 ^{せいちょう}成長するのに ^{じかん}時間が
かかる。 ^{のうふ}農夫は それを、 ^{じぶん}自分の ^{しごと}仕事の
^{いちぶ}一部として ^う受け入れなきや ^いならんのだ。
そうすれば、 ^{じかん}時間がかかると ^い言っ
て いらいらしないで すむからな。」



ハーバートおじさんは、パークの^{せなか}背中をポんと
たたいて言いました。「^{きな}気長にやれば、ほかに
^{なに}何ができるか^き気をもまなくてすむし、その
^{ときどき}時々^{たの}にやっていることを^{かんしゃ}楽しんだり感謝できる
ようになるんじや。^{ことし}今年の^{なつ}夏はこの^{のうじょう}農場で、
^{すこ}少しばかり^{じかん}時間のかかるいろいろな^{ものごと}物事の
^{たいせつ}大切さを^{まな}学びなされ。きっと、^{あたら}新しく^{すばらしい}すばらしい
ことを^{はっけん}発見できるじゃろう。」

そして、パークは^{まさ}正にそうしたのでした。
^{なに}何かについて^{かん}せつかに^{まわ}感じるたびに、^{かんが}周りを見渡
^{みわた}し、いろいろなことについて^{かんが}ちょっと考えて
みたのです。^{ものごと}物事は^{どうぶつ}どうしてそのように
なるのかとか、^{どうぶつ}動物は^{これやあれ}どうしてこれやあれやの
ことをするのかなどです。さらには、^{そら}空に^う浮かぶ
ふわふわした^{くも}雲や、^{はたけ}畑の^{さくもつ}作物を^{たん}ただ単に
ながめたりもしました。

その^{なつ}夏、パークは^{すばらしい}すばらしいことをたくさん
^{はっけん}発見しました。^{ものごと}物事を^{すこ}少し^{ゆっくり}ゆっくりやり、
^{きな}気長になって、^{まわ}周りの^{ものごと}物事の^{たいせつ}大切さを^{かんが}考えて
みただけで、いろいろな^{はっけん}発見ができたのです。



かみさま いっほんいっほん き ちい
神様は、1本1本の木や、小さなあかちゃんを
つく じかん
造るのに、時間をかけられる。ちっぽけな
マルハナバチをつく じかん
マルハナバチを造るのにさえ、時間をかけられる。
わたしたちが み じぶん
見て、自分たちがどうあるべきかを
まな
学べるように、それらが ゆっくり、ゆっくりと
せいちょう
成長するように、神様は つく
造られた。

そうぞうぬし なか そうぞうぬし かみさま はな
創造主の中の創造主である神様は、花や、
き ぎ は せいちょう
木々や、葉っぱを、ゆっくりと成長させて
くださる。かみさま そうぞうぶつ
神様は、創造物が ゆっくりと
せいちょう
成長するのを見るのが お好きなのだ。かみさま
ものごと じかん
物事に時間をかけられることを、わたしは
し
知っている。

—シア・ギューダの ちよさくぶつ かいさく
著作物の改作

文：デヴォン・T・ソマーズ、デービッド・B・バーグの著書からの編集
絵：バルコス・ドゥードラー デザイン：クリスティア・コーブランド
出版：マイ・ワンダー・スタジオ Copyright © 2012年、
ファミリーインターナショナル “Have Patience”--Japanese

<http://www.mywonderstudio.com/0-5/2012/8/6/presenting-burke-and-steve-in-have-patience.html>